

香葉



1986

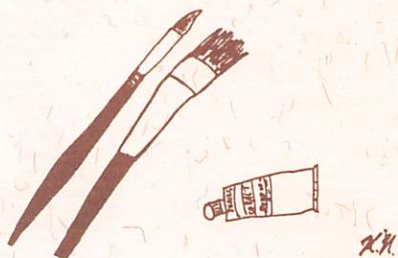
NO.15

目 次

講演会ご案内	1
「発展する母校」	林 淳 三 3
女専のページ	4
覚え書 (十五)	上 市 二 郎 6
永井路子先生講演要約	青 木 千 恵 子 9
コーヨースポットライト	辻 村 桂 子 12
香報室 (卒業生のメッセージ)	14
旅行記「ベツレヘム」	光 畑 清 18
夏期カナダ研修への参加	高 尾 尚 江 20
クラス会報告	21
賛助金の御礼	22
香葉会決算・予算報告	23
「就職体制一段と充実」	24
母校ニュース	25
柳生院長召される	28

表 紙……………関 頼 武

カット……………成 川 勝 子



短大祭参加

『鳥飼玖美子先生講演会』



香葉会主催の第2回講演会。今年は国際情報化時代の中であり、同時通訳者としてご活躍中の鳥飼玖美子先生をお招きすることになりました。働く女性の一人としての生きたお話しが聞かれることと思います。是非ご参加下さい。

テーマ 「これからの世界と日本の女性」

日時：11月23日(日) 13：00より

場所：短大1号館503号室

尚、同封のハガキにてご返事を11月20日までにお出し下さい。

講師の紹介

鳥飼玖美子先生は東洋英和女学院高等部3年時、AFS奨学金で米国留学、帰国後、上智大学外国語学部に入學、2年在学中より同時通訳の仕事を始められ、アポロ宇宙中継でテレビ出演、卒業後も多くの国際会議など手がけられ、現在はインタビュアー、司会者、エッセイスト、「百万人の英語」レギュラー講師などとしてご活躍中です。

著書 「玖美子の出会い」「英語にさようなら」

「イヤホンをはずしてみたら」「玖美子のおしゃべり」

対談集「英語で何をやるの？」等多数

✧香葉会の部屋✧ご案内

卒業生と在校生、教職員との交流の場として、又、卒業生の部屋として3号館101号室にて、コーヒーと手作り菓子の無料サービスをいたします。皆様お誘い合わせの上、是非お立寄り下さい。

チャペル建設に同窓生の熱い心を！



チャペル建設募金をお願いして現在までに 250 名程の同窓生の皆様から貴重なご寄付をいただきました。ほんとうにありがとうございました。

今のところ目標額の 3 分の 1 程の募金額です。青春の 1 コマを飾った短大の為に一人でも多くの方の名を連ね、私達の母校の発展に力をお貸し下さい。

募金の金額は問いません!! 同窓生の心を母校に伝えたいのです。どうかご協力をお願い致します。

申し込み等は香葉会事務局へお問い合わせ下さい。

045-784-1491 (内線 216) 洲上・益

現在工事は順調に進み来春には完成の予定です。

発展する母校

学長 林 淳三



関東学院女子短期大学は、本年が女子教育四〇周年に当ります。関東学院は一〇二年前に男子数名の学生で始められた学校ですが、第二次大戦終了時まで、男子のみの学校でした。それが一九四六年に、関東学院女子専門学校を設立し、初めて学院で女子教育が行われました。以来、本学は共学であった二部夜学を除き、女専、女子短大を通じ、英文、国文、家政、幼児教育など、女子に適した学科を設置し、女子のみを対象にした教育を行ってきたのであります。しかし、最初は関東学院内での女子教育に対する本当の意味での理解は得られず、男子校に花をそえたという程度ではなかったかと思われれます。そのことは学院が女子の学校をつくりながら、女子教育の場を三〇年間あたえなかったことが物語っています。したがって、現在の室の木の地に、女子短大の校舎を建てたことは、学院が本格的に女子教育を行う姿勢を示すものであります。ようやく女子短大を評価したと言えるのではないのでしょうか。

そうしたことから、本学では今年中に関東学院女子教育四〇周年を記念した事業を行いたいと考えています。記念事業のひとつとして、女子教育四〇年の記念写真集を出版予定しています。そして、

多数の卒業生の皆さんにご寄付頂いた募金のもとで、目下建築中のチャペルが明年三月に完成しますので、そのご披露を兼ね、記念式典を行う計画を練っております。

その他、発展しつつある母校の近況をご報告申し上げます。まず、本学は昭和六二年四月開設を目標として現在、経営情報科という学科を新に増設するため、文部省に申請しています。これは経営学を基礎学問とし、最近の情報社会に対応してコンピュータを駆使する近代女性の育成を目的とした学科です。しかし、その設置は容易ではありません。設置審査は二年かかり、短大だけでなく、学校法人関東学院がかかえる大きな仕事として、いま法人事務局と短大が一致してこれに取り組んでいます。この経営情報科が設置されますと、本学は英文科、国文科、家政科、幼児教育科に加え、五科三専攻（家政科家政専攻、生活文化専攻、食物栄養専攻）になります。すなわち、社会科学系が充足され、総合短大が完成するのであります。そして、学生数も約一九〇〇名になる予定です。

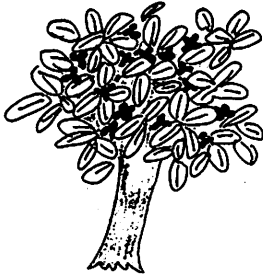
本学の施設はますます充実してきました。念願の女子短大用グラウンドは、旧大学野球場を獲得し、それに全天候型テニスコート四面と弓道場が設けられ、残りに芝生が植えられ、広々としたグリーンになっていきます。あの赤茶けた大学グラウンドの見事な変身です。

事務機構に新しく就職課がつくられ、課長、係長、職員二名が配置されています。そして、求人先の開拓も積極的に進められていて、八月中にも相談に応ずる態勢ができました。

教育面では本年から英文科に語学コース、文学コースのほか、国際コミュニケーションコースができ、幼児教育科も保育コースと幼児音楽コースに分れました。また、家政科では最新パソコン二〇台

を入れ、情報処理演習の授業が行われています。そのほか、国際交流では従来のハワイ大
学研修のほか、カナダのプリテツシュ・コロ
ンビア大学の三週間研修も行われました。

しかしながら、本学は今年も不幸なこと、
困難なこと、失敗したことなど、いくつかの
事件に遭遇して居ります。その度ごとに反省
し、建学の精神に則った女子教育達成に教職
員ともども努力していることをご報告申し上
げます。



X.M.

女専のページ

このページは、女専の卒業生の皆さんのペ
ージです。どんなことでも結構ですので、ど
しどしご投稿下さい。古きを尋ね、新しきを
知れ。これからの香葉会の為に諸先輩方のお
話しをお聞かせ下さい。

長嶋弥撒子さんを偲んで

中根悦子

米国コロラド州のテンバーに住む、長嶋弥
撒子(旧姓平部)さんが四月二十七日に召天
されたこと、千葉に住むお母様からの電話を受
けて、暫し呆然としました。弥撒子さんは潑
刺としていて、社交的で、にこやかな姿が印
象に残る親しみ易い人柄ですから誰にでも好
かれました。クリスマスチャンホームの長女とし
て育ち、捜真女学校、関東学院女子専門学校
英文科を経て、テキサスのウェイランドカレ
ヂへ留学をし、卒業の年に結婚されました。
日系二世のご主人は州政府で設計技師の仕事
をされて、三人の息子さんを与えられました
が、結婚して八年目に急逝されました。弥撒

子さんは、公立小学校で絵画の先生をして、
三人の息子さん育てました。

米国の学校は夏休みが三ヶ月もあるので、
コロラド州を訪れ、弥撒子さんのお宅に滞在
した方が多くあると伺っています。一夏は、
息子さん達と長い船旅をして、里帰りされま
した。その翌年、小山郁子さんと私は、テン
バーを訪れ、ワグナー美代(旧姓柴田)さん
一家と賑やかに観光旅行を楽しみました。

二年前に、弥撒子さんが直腸ガンの手術を
受け自宅で療養中と伺い勧められるままに、
千葉のお母様から託されたお土産を手に訪問
しました。思ったよりずっと元気で、医学を
専攻している次男も全く心配している様子が
なく意外でした。お庭に季節の草花を植えて
ベランダで食事をしたり、ドライブして友人
を訪問したり気儘な生活振りなので、私は安
心したのでした。日曜日には、第一バプテス
ト教会へ行き、親しい方々を紹介していただ
き、数名の方との文通を約束しました。その
中の一人が去年九月にお便りを下さり、弥撒
子さんが三度目の手術を受けて自宅療養をし
ているが、看護婦さんが付切りで世話をす
る程に弱っている。必要なら国際電話で連絡し
てもよいと知らせてきたので、平部家へお便

りました。

此の度、病状が悪化して知らせがあり、カナダに住む妹さんが病床を訪れ、鎌倉の弟さんも渡米して告別式に出られました。式は第一バプテスト教会で行われ、三百人の友人知人が別れを惜しんだそうです。

長男は建築技師になり、次男は医者、三男は大学で教鞭をとっておられ、各々社会の重要な役割を担って活躍しておいでになるそうです。ご一家の皆様、神様の豊かな祝福があり、平安が与えられます様に、心から祈らせていただきます。



アメリカにて
長嶋弥撒子
1984年5月12日
中根悦子

安藤先生の叙勲をお祝いして

昨春秋、安藤寿々代先生が名誉の叙勲を得られましたので、十二月十四日、女専一回卒有志でささやかなお祝いの会を開きました。

横浜瀬里奈で、小山郁子さんがお世話役。相変らず同級生の様にお若い先生は、ロソングドレスに可愛らしいボシエットをかけてお出まし。今昔の話が咲いて、終りに、卒業以来初めて先生の指揮で、クリスマスキャロルを唱って学院生活をなつかしみました。

澄谷（中島）亮子さん（英一）は、十数年来点訳奉仕を続けておられます。昨春秋の盲人団体からの表彰につづいて、今年三月十五日（於官邸）に、点字図書館の代表として、お招きをうけ出席なさいました。長い間忙しい日常の中で、社会に盡されてきたことに深く敬意を表します。

「メキシコ 雑詠」

澄谷（中島）亮子（英一）

インディオの子らの売声つきてくる手に籠・敷物・人形・イグアナ

ピラミッドに稲妻走りいかづちの遠く海ある
如きとどろき（テリオテウワカン遺跡）

旅人ら夜のリフトにかわしあうアエノスノー
チエス（おやすみ）やさしきひびき
山かげの貧しき小屋にインディオの少年一人
山羊守っている

土岐（中川）房子（家二）

我ゆえに運命きびしくなり給ふ厨にほとほと
音立つる夫

薬疹に黒ずむ肌を悲しみつ母なればなほ生き
たしと思ふ

夫子等に遠く住むゆゑ温かく心に沁むる夕べ
の灯し

花に浴ふ道は続くよ臥しながら夢は春野に我
を誘ふ

息吹くものなべてはやさし生きながら浄土と
思へ死をば急がず

（十年位前に、数年余り生死の間をさまよう
闘病生活の中から詠まれた作品で、今はお元
気になられている由です）

19ページ下段へつづく



覚え書 (十五)

—女専・短大小史—

上市 二郎

学院の定年を迎えてからの一カ年間は、短大当局の厚意で生活文化研究所の仕事と香葉会の手伝いをしてきた。部屋は図書館の五階東北の角に位置している。東側の窓からは二号館が眺められ、タイプ室、語学演習室および準備室が目に入る。北側は待従川の向うに昭和三十二、三年頃に、入り海を埋め立てた柳町住宅地が、その右へ平潟湾が一眸でき、大変素晴らしい研究室である。今年の受験生は、三千九百名余と聞く。毎年多数の受験生の中から選抜された優秀な学生達が眼下の校門を朝な夕な通る姿を眺めるとき、昔の光景が脳裏をかすめ一瞬胸が熱くなるのを覚える。

私は短大を去るに際して、この「覚え書」の執筆を辞退したが、香葉会役員の方々からの希望があるので継続してほしいと云われ、今暫くの間続けることとなった。

さて、前号は昭和三十年三月、卒業に關す

るもので終っている。三春台校地からこの六浦校地へ移転して満一カ年が過ぎようとしている。在学生は春休みを迎えたが、学校はこの期を利用して種々新学期を迎える準備である。教室や事務室等の模様替えを行なうのである。前号でも触れているが海軍関係の施設を利用した校舎は、一、二、三号館共に東西に延びる細長い木造二階建の建物であった。

私の記憶に誤りがなければ、昭和二十七年正月四日夜半火災で消失した四、五、六号館も同じ型の建物であった。この四から六の建物は、戦災に遇われた教職員の家族および大学の学生寮として使用されていたが、正月休みに残留していた学生の電気コンロの不始末による過熱が原因とか聞いている。この中で一号館と八号館（現在大学のオリープの広場となっている所にあつた建物）は横巾が広く、中廊下があつて南北両側に別れて部屋がいくつも区分されていた。丁度この時期に一号館南側一階にあつた短大事務室を、二階北側の薄暗い部屋に移転することになったのである。今迄一階の北側にあつた医務室には陽が入らない陰気な部屋で、病人のためには良くないという理由から、南側にあつた陽の当る明るい短大の事務室の所に移すことにしたため

である。当時二階の北側に大学の会議室が二つあつた。東寄りの第二会議室を短大の教員控え室に与えられ改修したのもこの時である。建物東側の端に宣教師の住居があつたが、その一つ北側の部屋を音楽室に貰ううけて整備した。当時の一号館を思い起こすと、一階北側玄関（写真が十三号に掲載）を入ると二部（夜間部）の事務室、左手に工学部の実験室、南側には大学の庶務課と階段教室等で、二階北側に宗教主任・宗教委員会室、会議室があつた。南側には学院長室、大学長室、大学事務長室、広報室、経済学部長室、大学教務課、南西の角には短大部長室があり、この部長室は下屋型式で天井が低く非常に暑い部屋であつた。このような状態で改修・整備して生活したもので、事務職員は五名余の頃である。

四月を迎え十四日（木）午後一時三十分から入学式、十五日（金）も同時刻から在校生を加えて始業式が行なわれ、二十日（水）午前中は授業を行ない午後一時から校友会主催の新生歓迎会が開かれている。また英文科第二部は十四日午後六時入学式、十五日午後六時の始業式を済ませて開始したのである。

四月二十七日（水）の教授会では相川部長が次のようなことを発表している。「大学・

短大共用の図書館を六号館跡地に約三千六百万円の建設費をもって取り組むことになったこと。資金は両大学から支弁する外、専任教職員への強制寄付と卒業生有志の寄付をもって充当すること。建設案が練り上った段階で、英文科第二部の学生にも相川部長が説明をして協力を求めること。これは当時の坂田祐学院長の肝入りで横浜随一の図書館建設を夢見たものであったことを思い出す。

五月九日(月)午後五時三十分から八時頃迄昼間部と夜間部学生との交換会が開かれていた。この日のリクリエーションの指導者はYMCAの広田兼敏先生であった。広い大きな体育館は照明一つなく薄暗い電灯の下で、フォークダンスやゲーム、学友会で準備した茶菓子で和やかな懇親のひとときが持たれたのであった。

前にも記したことがあるが、当時学友会拡大委員会という会があった。学生側は学友会役員と文連・体連の各代表委員、それに各科各組の委員をもって構成し、教職員側も役職者が出席して共に報告しあい、希望を述べ話しあい、協議の場として利用し実行に移したものであった。そして学校側の考え、学生側の考え、お互いの云い分が充分に検討され理

解を深める場となったのである。四年制の大学と異なり僅か二カ年間という短い学生生活のため、三、四年前のことを知らない。以前に学生が苦い経験をもって困ったようなことも、再び学生から希望事項として出され、種過去の事柄を実例をもって話し、経緯について説明すると良く理解してくれたもので、申し出た希望、要望が気分良く取り下げられたというようにして会が運営されていたのであった。

丁度この頃、以前から検討されていた学生の卒業式に着てくるものが和、洋不揃いで、段上に乗って一人ひとり学長から卒業証書が授与されている姿、服装について何とかならないものだろうか、と話し合いが続いていた。教員の中には白いブラウスに紺か黒のスカートに統一してはどうか、という声もあったが、衣服の上に統一したガウンを着用するという方向づけが実って、この拡大委員会にも計っている。学生は苦笑して聞いていたが、ガウンは学校で準備してクリーニング代位の費用で学生に貸与する、という説明に理解され、翌年度頃から実施され今日に及んでいる。白いカラーを使用するようになったのは数年後のことである。

また、次のようなこともあった。当時は毎朝の礼拝が守られ、午前十時二十分から二十分間礼拝堂(現在の大学七号館)経済学館の所にあつた旧海軍の食堂を改装して講堂とサンヨーホール等を使用していた建物)で礼拝が行なわれていた。礼拝が済んで短大生が外に出てみると、前の学生会館に大学の男子学生がずらりと幾列にも並んで、中には会館前にどっかり腰をおろして、出てくる女子学生を批評したり奇声を発して、冷やかすので短大生も通るのに気が引けて困る、何とかならないだろうか。というようにこの委員会に持ち出されていた。学校側も早速大学の学生部へ申し入れをしたが、仲々急には変らないので再三申し入れをしたことを思い出す。やがて文学部が増設(昭和四十三年春)されてからは女子学生が多くなり、いつとはなしにこういうこともなくなっていくた。しかし、短大生は六浦校地へ移ったことで、朝家を出てくるのが早くなったためか、美のためか、朝食を取らずに登校してくる学生が増えて、時折り弁当を広げてこの二十分間を過ごしている不心得者が見受けられるようになった。「礼拝時間は短大生のランチタイムですかね?」と皮肉られた大学の先生もあつた

ことを記憶している。

五月を迎えた上旬の委員会では次のようなことも話し合いが行なわれていた。前述の如く新入生歓迎会は恒例に従って行なわれたが、特に新しい学生の横の連係、交りの場を持つことが多ければ多い程友人も早くできるし、学生生活も僅かな歳月なので一日も早く学院の校風に馴じて不安なく過ごせるように、との計いの基に、六月六日(月)に真鶴岬へのバスハイイク一日懇親会を実施しよう話し合い、計画され実行することになったのである。処が場所の事情に詳しい者もなく、しかも今のような西湘バイパスや真鶴バイパスがなく、岬の周辺も未整理の所が多かった。現在あるような釣り堀やサボテン園、その上立派な休憩所もなかった時代、多数の学生が行って果して有効に利用出来るかどうか、という点で、早速現地を視察してくるよう命ぜられた。学校にも車がなかった頃でもあり、列車を利用し駅前から岬へはバスで、一巡して帰るの一日がかりの仕事となった。公園の外れに小さな食堂が一軒、三つ石の海辺へ下りる急な階段の降り口によしず張りの茶屋があるのみだった。しかし場所は広いし、干潮時には三つ石迄歩いて行ける。その両側の

砕ける波、岩場を泳ぐ小さな魚、自然の美しさ、計画を良く練って利用方法を考えれば充分楽しい時間が持てるし、リクリエーションの場としての価値ありと確信して帰り報告した。予定通り六日、晴天に恵まれてバスハイイクが実施され、所期の目的が充分達成された。その頃の記録を見るとバス代、地引網代を含め学生一人当り四百円と記されている。

いよいよ夏の諸行事が発表される時期である。夏休み直前に開講される原典経済学について記しておこう。大学の経済学部主催で特講(特別講義)が開かれ短大生にも参加するよう呼びかけがあった。一般教育科目の非常勤講師(経済学担当)が経済学部所属のため、学部では受講者に一定の単位を与えるとして勧誘が行なわれた。学生もその気になったが、果して短大の学科の単位として認められるかどうかについて検討、論議が重ねられた。結果は短大の一般教育科目の単位としては認められない、ということになったが、自発的に受講する学生も少くなかったので、今では思い出の一齣となった者もあるだろう。

紙面の都合で夏の行事は次へ送り、木造校舎での授業で困ったことを記しておこう。昭和十六年頃に建てたという木造一階建校舎

(十二号でも記載)窓枠が木製で温かみがあるとはいえ、ガラス戸一本に六〜八枚の板ガラスがはめ込んである。古くて乾燥しきっているのでガラス板が枠と密着せず、強い風の日はガラスの振動が大きく室内の言葉が伝わらなかつた。その上悪いことに隣りの追浜に米軍のヘリコプター基地があつて、三機五機七機と編隊を組んで離着陸する。その回数も多く厚木方面に向うのか校舎の上を飛来する。そのたび毎にガラス戸の振動が烈しく、教師の話は中断せざるを得なかつた。講義進度の關係で先生が続けている折は、騒音で打ち消されてしまつた。その上、この三号館二階の教室は夜間の商工高等学校(昭和二十三年四月から四十八年三月まで)が午後五時以降使用していたので、学生が残って補習や作業することが許されなかつた。夜間の生徒が登校してくるからである。商工は給食を行なっていたから教室が夕食の場ともなり、机の中には残パンが翌日まで点在することもあつて女子学生の教育の場としては、甚だ不適当な環境であつた。当時としては止むを得なかつたのだろうが、一日も早く短大独自の校舎を願つたものである。

第一回講演会 大好評！

— 作家・永井路子氏をお招きして —

一九八五年十一月二十三日、短大祭に参加した香葉会は、初めての試みとして「講演会」を企画、講師に永井路子先生をお招きしました。歴史上の女性を主題にした多くの名作を書いておられる先生は、それぞれの時代を生きた女性達の歴史に与えた大きな力を、私共に示し、真の自立への道をどうしたら見付けていけるか、歴史の中から学んで欲しいという、非常に興味深い内容のお話をして下さいました。質問や感想も活発に出て、永井先生も喜ばれました。参加者・短大の先生方にも、毎年続けて欲しいと大変好評な講演会でした。以下、お話の要約を紹介します。

「女達の辿った道」

要約 青木千恵子

今年も国際婦人年でもありますし、これからは女の人の生き方も変わってくると思います。女の人の自立といわれますが、それでは今までの女の人は自立してなかったのか。歴史の中の女の人がどんな風に生きていたのか、足跡をたどってみたいと思います。女の人はいい母であり、いい妻であり、それは昔も今も変わらない。人を愛する、子を愛するということの働きは永遠に変わらない。ところが歴史の中の女の人を見る時、その点が色々違った受取り方をされている。今日は、関西テレビで「明日香の晩秋」というテーマで紹介するこ

とになっている。「持統天皇」をとり上げお話ししたいと思います。

持統天皇のよまれた歌に「春過ぎて夏来にけらし白妙の、衣干すてふ天の香具山」というのがありますが、実はこの歌は、本来万葉集で「春過ぎて夏来たるらし白妙の衣干したり天の香具山」と詠まれたものを平安朝時代、藤原定家が、百人一首に撰した折に「来たるらし」をよりからやかな表現の「来にけらし」に、「衣干したり」を「衣干すてふ」つまり「衣を干した」という実景を見ている者の表現に改めたものであります。持統天皇は実景を見ているここに表現の違いがあるのですが、飛鳥を語る為には、持統天皇をとり上げたい。どうしてかという、古代の女の人の、母親として女帝としての色んな問題をこの人が含んでいると思うからです。

持統天皇は天智天皇の娘で天武天皇の後であり、天智天皇と天武天皇は兄弟、つまり叔父と姪の結婚ということになる。当時はこのような近親結婚が多かった。この時代は父親が女性の元に通い、子供達は母親と共に生活していた。持統天皇は激しい時代の変革期に生れた方です。蘇我氏の勢力が強大で、蝦夷、入鹿が専横を極め、天皇をないがしろにするというので、中大兄皇子が^{ナカノオノエノミコ}入鹿を切つてしまつた。蘇我中心の政治の仕組を変えて新しい政治が出来たが、それが起つた年に持統天皇が生れている。



講演中の永井先生

これは偶然のことではなく母親の系譜を調べなければ古代の歴史の鍵を握る部分に分らない。母は蘇我倉山田石川麻呂の娘、遠智娘で、蘇我一族の勢力争いの中で入鹿を倒すために、天智天皇は他の蘇我氏の娘と政略結婚をし、丁度、持統天皇が生れた年にクーデターが起る。しかも蘇我氏一番の勢力者となった石川麻呂は、持統天皇がもの心つくかつかぬうちに殺されてしまう。しかも祖父を殺させたのは父親であり、母親は殺させたくないという両親の相克の中で生れ、すさまじい時代を生きた。母は父親を殺された悲しみのあまり間もなく死に、母の妹、姪娘の元で育てられた。当時の日本は大化の改新の後、大きく変り、海外の状況も風運急をつけ、朝鮮の百濟が新羅に攻められ、それを助けるため救援隊を出すが大敗してしまふ。そのため日本は占領されるかもしれない危機に陥いつた為、都を近江に移すことになる。この頃持統天皇は天武天皇と結婚し、草壁皇子が生れる。当時、家庭は母親が中心であり、ここに日本の家庭のあり方の中心がある。天智天皇と天武天皇は兄弟でありながら仲がよくない。天智天皇が亡くなった時に起きるのが壬申の乱である。天智天皇は、息子の天智皇子に位を譲りたい為、天武天皇が邪魔になつてきた。天武天皇は身の危険を感じ、吉野に逃れ天智天皇が亡くなった時、兵を挙げて近江勢力を一掃し、飛鳥に帰る。これが今問題になっている浄御原の朝廷で、持統天皇も皇后となる。天武天皇が亡くなった後、誰が皇位につくか、しばらく空白の時がある。ここで女の人の力というものを考えてみたい。当時は天皇は必ず奥さんと一緒に政治をした。只の家庭婦人ではなく政治にも手伝いをしていた。夫が亡くなると息子の草壁皇子と協同で政治を行うことになる。子供が若い時は母が協力してやる。女の人は大きな荷

運をもつわけである。持統天皇の姉太田皇女も天武天皇の妻であるが、大津皇子という優秀な息子がいて、次の天皇への皆の期待も大きい。しかし持統は草壁皇子につがせたいという中で大津皇子は謀叛の疑いありと殺されてしまう。万葉集に大津皇子の有名な歌があり「空蟬の岩根の池に見る鴨を、今日のみ見てや雲隠れなむ」。持統天皇はこのことの為にエゴイストだ。冷たい女だと云われる。確かにそうだが現代の「甥を殺した」というのと違ふのは先ず自分の子供を守る。もう一つ大事なことは大津皇子の奥さんが祖父石川麻呂を殺した蘇我一族の娘である。大津皇子が位につけて自分のライバルである人の血を引いた人が皇后になる。これがどうしても許せなかつた。女の人の系統を非常に大事にする気持がある。祖父や母の霊を慰めるには、その血筋の者が皇位につく以外にないと考えた。持統天皇は「春過ぎて…」という叙景的な歌しか残していないので、何を考へていたか解らないと云われるが「春過ぎて…」の中で歌われている天の香具山の近くには、現在発掘が続いている祖父の建てた山田寺がある。祖父の故郷である飛鳥に帰ってきたのだという悲しみと喜びの想いがこめられていたのではないか。自分の子供が可愛いため丈ではなく、家を守らなければならないという気持が、歴史の中で悪評しか残らないだろうと思ひながらそうせざるを得なかつた女の問題があり、逆に、自立の姿の厳しさである、自立とは自分で稼いで食べるという丈でなく社会的に責任をもって生きなければならぬ。これが歴史の中で新しく流れに沿うものと思つたら、悪評を立てられても、それをやり通す勇氣がなければいけない。古代の女性は男の後にかくれていたのでなく社会的勇氣、責任を負いながら生きて自立していた。今女の人は自立すべきだと思ふ。そ

れは社会的責任をもつ事。子供の為に平和を守るのが大事なら、核戦争は絶対に起らないようにすべきだし、そういう事に対する目をもっていないと本当の女の自立は出来ないと思う。母が如何に大きな力をもっていたか、母が一家の大黒柱であったことが古代の女性像から伺えるが、これは日本の特殊な形である。昔から母の事を大刀自といい、色々采配を振って世の中へ気くばりをしてバランスをとっていた。古代では女帝、平安朝では天皇の母、後の世では北條政子がそうであり、政子は、自分の息子も殺してしまった悪い女だと云われているが、実は彼女の中にも大刀自としてやらねばならぬ事、母としてやらねばならぬ事等が渦巻いており、次々に失敗をしたりして一生苦しみながら生きてきた人だと思ふ。(ここで伊豆の修善寺から発見された政子の髪の毛についての非常に興味深いエピソードの数々がありました)が誌面の都合上、残念ながら割愛します。頼家は幕府に対して反抗した国家的犯罪の政治犯と云われ殺されてしまふ。後に頼家の子、公郷が実朝を殺すことになるが、政子がかけた孫への愛情が生んだ悲劇といえる。女の人の愛情が裏目に出た時が怖い。皆の為によかれと思つてしたことが、とんでもない働きをする場合もある。政子は悲しみを押えて、失敗したと思ひながらやつた。これは社会的に自立した女が経験する悲しみであり、女の人が世の中を生きていくのは大変なことであると思ふが、これから十年先、二十年先を考えてみると女の人は誰かさんの世話になつて食べていけるかというと思つてはならないと思ふ。又その方が女の人にとって幸せである。夫婦の協力が得られれば女の人も家庭と仕事をうまく両立させる方向にいつている。社会的に生きる自立とは或る意味で非常に辛いこともある。それを解つて、切り抜

けてこそ本当の社会人になれるのだという事をお嬢様方にも云つて戴きたい。皆様方も、子育ての後、社会的に何かの仕事をもつて戴きたい。収入につながらなくてもいい、ボランティアも、よい仕事である。社会にかかわりをもつていけると、その中で人間としてどうしなければならぬか、よく解つてくると思ふ。そういう意味で歴史の中の女の人達の生き方をみて色々、学びとつて戴けたらよいと思ふ。最近、杉本苑子さんと「ごめんあそばせ独断日本史」という村談集を出しまして、その中に政子の髪の毛のことなど、もつとくわしく話しております。女の人がどう生きるかという事など書いております。もし機会があつて読んで戴ければ大変ありがたいことだと思ひます。

・この方は太きく母は
 ちかまのし。おれん
 内政子と云うは
 百七くそと云うは
 あはく、いんぼを
 わこ、こいさをも
 さき背ははらさん
 ちかまのし
 ちかまのし
 ちかまのし

永井先生自筆のおハガキ



講演後控室でくつろがれる先生

(終り)

コーヨースポットライト

輝く瞳の子供達とともに

辻村桂子

昭和六十一年四月一日、職員室に二人のニューフェイスを迎え、我園の昭和六十一年度がスタートしました。今年のニューフェイスは二人とも、この三月に関東学院女子短期大学幼児教育科を卒業し、そして彼女達を迎えた私達三人も、それぞれ何年か前に、林学長より卒業証書を頂いたのです。つまり我園は、理事長、園長を除いた全員が関東OGなのです。

私たち五人の勤務する聖路加幼稚園は鎌倉の稲村ガ崎にあり、今年創立四十周年を迎えます。海も山も歩いて数分という恵まれた環境の中にあり、子ども達はそれらを活用し、さらに自由遊びを中心とした保育形態の中で、伸び伸びと生活しています。この幼稚園の歴史のページを、同じ教えを受けた私達が力を合わせ、作り上げていくその責任と同時に喜びを感じた四月でした。

こうして四月八日、新入園児を迎え、五才児四〇名、四才児五十一名、三才児十七名と理事長、園長、そして先生五名の園生活が始まりました。毎年このながら初めて母親のもとから離れ、新しい世界に飛び込むとする子ども達は、様々な不安から泣いて登園をいやがったり、登園しても本来の自分を出せないでいる子が沢山います。そんな子ども達が一日も早く喜んで登園できるようにしてあげることが、私達の第一番目の仕事です。一人一人の不安な気持ちを理解しながら、先生やお友達と遊ぶことの楽しさを感じさせてあげるのであるのです。それに

は先生が先生としてではなく、友だちの一人として心の底から楽しく遊び、子どもと一緒に遊べる世界に同化していくことが必要です。先生にしがみついて泣いていた子ども、少しずつ落ち付いてくると、まわりの様子をじっと見つめはじめます。年長児たちがトロトロの泥の中に手をいれてグチュグチュとやっています。ホットケーキを作っている子たち、動物や花を作っている子たち、聖ルカ名物のツルピカ団子を作っている子たち、そんな様子を興味深く見つめはじめるので、すると年長児たちは、去年自分が年長さんからしてもらった様に優しく声をかけます。「ほらさわってごらんよ、トロトロで気持ちいいよ。」すると泣いていた子どももそつとさわってみるのです。最初は恐る恐る……こうして泥ご遊びの仲間入りです。泥の中でギュッと手を握る、すると指の間からトロトロの泥がニユツとはみ出す。ちよつとくすぐったいけれど、何だかおもしろい、こんなふうにグチュグチュやっているうちに段々と表情も柔らかく、遊び方も派手になってくるのです。ドロの表面をバシバシやとたたきはじめる子、ドロがはねて顔にひっかかっても平気、ドロのはねたお互いの顔を見あわせて笑っている。もうこうなると上品になんかやっつけていられない、泥の上にお尻をドツカとおろし、全身で泥と戯れはじめのです。こんな風に遊びを通して心がほぐれ、一緒に遊ぶことによつて心が通じ合っていくのでしょうか。そして友達と遊ぶことの楽しさを知ること



ジャングルジムでハイポーズ！

は、人を信じ、自信を持ち、さらには生きる力にもつながっていくのです。そして私達は「自分のクラス」などという小さい考えにとらわれず、皆で協力し合って、一人一人の子どもをしっかり受けとめ、必要な援助をしていくのです。そのために私達は、基本的な考え方を統一し、常に職員間のコミュニケーションを図る心がけています。保育終了後、その日一日のことを話し合うことはとても大切なことです。「今日ね、〇〇くと△△ちゃんがこんなことをしたよ。」などと話しをしながら子どもの理解を深めていくのです。

もうすぐ第二保育期、子ども達との楽しい毎日が始まります。今後とも皆で協力して、子ども達が充実した園生活を送れる様、頑張ってくださいと思います。

☆メンバー紹介

今年の四月から四才児二十六名を担任しています。子どもから教わる事が多く、毎日がとても充実しています。目下つるびか団子作りに奮闘中、子どもと一緒に泥まみれになって遊んでいます。

六十年卒業 長谷川 夕奈

四才児二十四名を担当しています。いつも、いつも元気いっぱい子ども達と遊んでいます。一年目ですので失敗も多いのですが、そんな時はきまって子ども達に慰められています。これからも頑張っていきたいと思います。

六十年卒業 小泉 理恵

海だ！山だ！とお天気が良ければ、子ども達と外へ出かける毎日です。外から帰ってきてのお弁当は、格別なんです。それから海で富士山を見ながらの食事も最高。稲村方崎ならではです。メンバーに恵まれ、自然にも恵まれ、おかげ様で食欲一杯、元気な三年目、今年も年長組の私です。五十八年度卒業 黒岩 さつき

海で、山で、園庭で、子ども達の一生懸命な顔。友達や年下の子

を労る姿、何か話す時の顔……。すべての顔が、姿が、とても素直で、素適で輝いています。だからこそ責任のある仕事なのですが、一日がとても楽しく、こんな素晴らしい職業につけて「幸福だなあ」と思う毎日です。

五十八年度卒業 高崎 千夏

いつのまにか五年目を迎えました。これからも初心を忘れず、情熱をもって、子ども達と接していきたいと思います。子ども達と一緒に楽しい毎日が送れる様に……。

五十六年度卒業 辻村 桂子

☆園長より

何年前からか、関東学院の卒業生が、我が聖路加幼稚園のスタッフに加わる様になり、とうとう六十一年度は全員が関東出身になりました。私共の園で、一回、二回と実習して、その間実際に子どもにたずさわわり、私共の思いを理解し、子どもに伝えてもらえるかを観察(?)させて頂きます。その上で幼児期の大切な教育をお任せできるか、又、学生さんの方でも、「ここなら自分の力を出せる、子ども達と楽しく生活できそうだ」と、思った方に就職して頂いています。最初は分からないことがあったり、戸惑ったりすることがありますが、やる気と愛の心で、素晴らしい先生に成長してくれます。学校で学んだことを益々発展させ、各人の個性を生かし、生き生きと生活できる場である様に、私共も心を配っていききたいと思っています。

筆者紹介

聖路加幼稚園勤務。五十六年幼児教育科卒業。
学生時代はバスケットボール部で活躍。

香報室



この欄は、卒業生の皆様の消息、感想文、等の発表の場として用意いたしました。今回も引き続き、昨年講演会出欠通知から無断で転載させていただいておりますが、短大香葉会「香葉」編集局宛、次号への原稿などお送り頂ければ幸いです。

美しい山の紅葉も終りになろうとしている今日、この頃、軒先には渋柿が、干柿になるために良く並んでいます。これからは野沢漬が始まり冬の支度に忙しくなる季節、又お炬燵では手編にと、冬も楽しい日々ではないかと思ひ、良い人生を過しております。

中澤（斉藤）富士子 25 女子 高英

昭和28年卒業時の住所が、18年前より上記に住所変更いたしました。32年ぶりの連絡をいただき有難く思っております。現在、燦葉会経済部会の方に総会のごとに、出席させていただいております。近くに住んでおります関係で文化祭の時も、時々見せていただいております。今後の発展を、お祈り申し上げます。（富士見工業㈱） 山本長生 28 英 II

来年度、娘がこの学校を、受験しますので久しぶりに母校を訪れました。キャンパスの素晴らしいのに感激しました。短大で学んだ英語を生かし、卒業後30年間、中学生に英語を教えております。「香葉」をいつも楽しみに読んでおります。来春には是非、娘の入学式に参列したいと思ひます。（自宅で英語塾）

瀬戸（高橋）和代 30 英

「香葉」いつもありがとうございます。立派になった母校を、一度訪ねたいと思ひながらもなかなか実現出来ません。体調をくずして以来、何事にも消極的になりがちで、これではいけないと思ひ、昨年、主治医のすすめもあり、思い切って、車の免許に挑戦し、5カ月かかって、取る事が出来ました。息子達からは、「いい年して、社会の迷惑だから乗らないでくれ」と言われておりますが、ここで、くじけてなるものかと、愛車に若葉マークをつけて毎日の通勤に乗っております。いつになるかわかりませんが、運転の腕を上げて母校へも遊びに行きたいと思っております。皆様、お元気で。

（瀬谷区役所）
小野和子 35 家

卒業しましてから早22年、娘や息子が、大入学入試という年代になりました。時々、公開講座などに伺わせていただいております。又年に2、3回は、ワングル仲間と会って、学生時代の話などして、にぎやかに過しております。いつも御連絡、ありがとうございます。これからも、よろしくお願ひいたします。

秋友（伊東）昌子 38 家

40代に入り、ますます充実した年代に、なりました。一昨年は、胆石の手術で、暗い毎日でしたが、やっと健康をとり戻し、最近は主人の趣味にあわせて、ゴルフの練習に週一回通っています。自分でやってみて初めて、ゴルフばかりに熱中する主人の気持が、少しでもわかったような気持です。私は、ゴルフのゴの字も嫌いでした。でも、これでは、いけないと思ひ決心してやってみたのです。相手にあわせていこうという努力、なかなか、自分の性格は、変えられませんが、家庭生活を守っていくには、やはり夫婦円満に持つて行くことが大切だと思っています。皆様はどのように、お過しかしら？ルツ寮で火鉢を囲んで、昔のように語り明したいな……。

早崎真代 39 英

短大で講演会を企画してくださるなんて、とても羨敵なことです。講演を聞いた後には懐しい先生方と歓談出来ますし……最高ですネ、今年から欠かさず、友を誘い出席させていただこうと楽しみにしておりますのに、現在、病人を二人も抱え、二つの病院を行ったり来たりの毎日が続いております。とても残念に思っております。次回の企画を楽しみに

しております。役員の皆様、有難うございました。そしてご苦勞様。

川上（奥田）妙子 41 英

フリーランスになって早4年目となりました。中学生からの夢であった通訳という職業、

実際に就いてみると想像以上の苦勞があります。まず体力、それに笑顔、e.t.c. 何しろお客様があつての通訳ですから、いつの間にか英語から離れ、ラテンの世界の魅力に取りつかれ、メキシコ、ヴェネズエラ他、中南米を中心に仕事をしてまいりました。その余餘として、サルサ、ガイタ、レゲエなど、随分中南米音楽に、くわしくなりました。一人で仕事をするとするのは、孤独との戦いですが自分には向いている職業だと思っております後輩の皆様もがんばって下さい。（西語通訳 翻訳業ラピス・インターナショナル所属）

小林豊子 44 英

5才の長女を頭に、3人の子育て中です。毎日が、あつという間に過ぎてしまいます。4月から長女が通っている幼稚園は梅沢先生が（私は家政科ですが）園長先生をしていらっしやり担任の先生も、関東を卒業されたピカ

ピカの先生で、子供が大好きな方、長女も毎日よるこんで通っています。さんぴかや聖句を覚えてきたり、小さな手でおいのりをする姿を見ていると学生時代を思い出したりしています。

須田（広瀬）和子 44 家

今年の夏、短大時代の友人が栃木から子供連れで遊びに来て、楽しい日を過ごしました。主人も関東学院大学卒で、友人とも知り合いですので、お互いの子供を寝かしつけて、夜話に花を咲かせました。短大時代の一番の思い出は、この友人と知り合えたことです。お互い離れ離れになって、なかなか思うように会えませんが、いつまでも大切に思っています。これからもきつと……それにしても幼稚園を頭に、彼女は2人、わたしは、3人の子持ち、5人相手の3日間は、さすがに、のぼせてしまいました。さりげなく、うちの子の分まで汚れたおしめを洗ってくれた彼女に感謝、友達つていいものだと思います。来年会う時は、お互いおしめの洗濯は、しなくて済むのかな？ 鈴木（谷）洋子 52 家

毎回、香葉を楽しみに拝見しております。図書館に配属になり3年目です。毎日、目録

分類等の作業と、レファレンスに追われていきます。私のところの図書館にも、短大論叢を学院より寄贈していただいています。先生方の研究発表をなつかしく拝見しております。

(横浜商工会議所商工図書館)

山田みさ子 53家

幼稚園の教諭になって、早7年め：あっ！という間でした。今年は6月に結婚し家庭と仕事の両立にファイト！でアタック：（これには、主人の協力が多大で、ほんとうに感謝：）とにかく好きで、始めた仕事です。子供たちは、ほんとうにかわいくて素直で純粹で：今でも、最初に子供の前に立った、あの感激だけは忘れていません。今、幼教は、特に就職が大変ですものね：でも熱意を持って、がんばって下さい。と、こんなところが近況です！♡

(泉ヶ丘幼稚園)

小室(辻)けい子 54幼

先生方、職員の方々、皆様いかがお過ごしでしょうか。「香葉」を拝見するたびに学生に戻った気分になり、とても懐しく読ませていただいております。英文科で学んだことは私にとって人生の最良の選択であったと誇り

にさえ感じます。また、図書館学をも学び司書の資格を取得したことは大変有意義であったと、各先生方に対して感謝に耐えませんが、その影響が図書館活動にも参加し、色々な場で私なりに学び続け、最近も16ミリ映写機講習を受講し、視聴覚部門でも活かせるようになりました。卒業生の方々が、各分野で活躍されている様子を読むたび類笑ましく、私も頑張らなくてはと励まされます。では皆様に幸多かれと祈りつつ、お会いできる日を楽しみにしております。(洋の染織 落合捺染)

向寒の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。講演会の案内いただきました。ありがとうございます。何分遠方のため出席できず、大変、残念に思っております。先日、関東学院六浦高校より職場へ転校生があり、世間って狭いなあ！と思うと共に、金沢八景での2年間とても、なつかしく思い出しました。機会がありましたら、ぜひ学校へも行って見たいと思っております。最後に、関東学院女子短期大学、香葉会の益々の発展を、お祈り申し上げます。

大坂恵子 55英

私にとりまして、今年で早くも4年目を迎えました。毎年、関東学院女子短大出身の後輩が多数、就職し、心強いです。私の所属するエンジニアリング調達部にも、学院の卒業生が、私も含めて、4人おります。皆、毎日、仕事におわれ、忙しい日々を過していますが時々、学生時代を思い出しますネ……！この「香葉」を見ても、やはり母校をなつかしく思いました。毎年、「香葉」を楽しく読ませていただいています。編集委員の皆様、本当に、ありがとうございます。昭和60年11月17日 (日本鋼管(株) 鶴見製作所)

三浦春美 57英

海外青年協力隊にて、マレーシアに、幼児教育のため派遣中です。(昭和59年12月3日から2年間)

加藤美保子 57幼

幼稚園に勤務して4年目になり、何日、子どもたちと笑ったり、泣いたり？苦しんだり？楽しんだりして過しています。子どもの純心さに、いつも、いつも感激しています。10月に軟式テニスのOJ会があり、久しぶりに仲間や先生に会ったのしかったです。学生

(岩手女子高等学校) 佐々木千代子 56食

かしこ

時代がなつかしく思いました。(岩波幼稚園)

丸山真智子 57幼

私達の会社には「関東会」という同校友会があります。年に一度総会を開き、2、3ヶ月ごとに皆で集まって食事をし、母校をなつかしんでおります。現在、会員は男女合わせて40名程ですが、21才〜60才と幅広いため、さまざまな「関東学院」の話聞くことができ、楽しいですよ！(神奈川県産自動車(株))

内田真由美 57幼

ご案内を、ありがとうございました。OL一年生になって早くも7ヶ月が過ぎました。会社は、自宅より40分位のところにあり、毎日、元氣よく通勤しております。国文科とはあまり、つながりがないのですが、辞書を、しっかりと机の中に入れて、活用しています。短大には、卒業後、一度も行っておりません。懐しい校舎を、ながめに行きたいです。皆様お元氣でいらっしやいますか？昭和60年11月8日。

(東洋信託銀行戸塚支店)

井上由紀子 60国

学校を卒業して、もう半年すぎました。ちょうど昨年の今頃には就職もきまり、毎日遊ぶ事はかり考えていました。今では、毎週、日曜日に、会社のテニス部で運動する事が楽しみです。短大二年の時に、田山先生に教えていただいたテニスの基礎、とても良かったと思っています。(三菱倉庫(株) 横浜支店)

新井淳子 60国

社会に出て、半年以上が過ぎましたが、無我夢中だったので、あっという間でした。仕事には、大体慣れましたが、まだまだ、わからない事ばかりで、これからだと思えます。ゆくゆくは、家政科を卒業したことを生かしたいと思ひ、今は、福井県生活科学センターの生活科学通信講座を受講しております。

(三谷商事株式会社)

野村雅代 60家



関東学院女子教育40周年記念事業

“あなたの心に残る名場面、懐しい写真を送って下さい”

短大では来年3月に女子教育を始めて40周年の記念式典を予定しています。つきましては卒業生の皆さんがお持ちの貴重な写真(主に昭和20年代の物)がありましたら香葉会までお送り下さい。できるだけ短大校舎、行事等の模様がよくわかるものを希望致します。

送り先は：〒236 横浜市金沢区六浦町4834

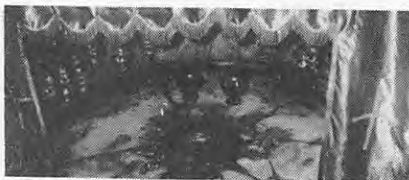
関東学院女子短期大学内

香葉会 「40周年記念事業」係まで

旅行記

「ベツレヘム」

英文II部一回 光畑 清



かねがね行って見たいと思っていた「聖書の国」への旅が実現し、イスラエルでの滞在は10日あまりでしたが、の何とも楽しく、恵まれた感謝の毎日でした。

エルサレムでの最後の日（8月20日）、世界で最も古い町の一つ、ユダヤ人の聖なる町へブロンを見学し、ユダの荒野にあるヘロディオオン（ヘロデ大王の造った要塞跡。大王死後その墓所とされている）を見学した後、ベツレヘムに向いました。

このあたりはパレスチナの海岸と、死海の谷とをへだてる低い山岳地帯で、エルサレムからの道も、山あいをうねうねと走っていくのです。ベツレヘムは、一つのなだらかな山の、ちょうど頂に位置して、山の斜面には段々畑ができていて、オリウの林が緑に茂っ

ています。肥沃な牧場と野原、この小高い丘陵になつているあたり、ここを羊飼いの野原と呼んでいるのです。クリスマス夜の出来事（ルカ2・8―14）の舞台は、この辺りだったのでしょうか。

ベツレヘム。子どもの頃から慣れ親しんで来た地名。エルサレムの南方約10キロにあるこの町は、小さな静かな町なのです。町はずれから北の方にエルサレムが眺められる所であり、ダビデ王の故郷でもあるのです。（ルツ4・11―18）。

『よき羊飼い』という名のレストランで昼食をしたため、いよいよ「聖誕教会」へ。町の中心なのでしょうか。警察などに囲まれた広場に面して聖誕教会があるのです。見まわすと、高い城壁があり、前方の城壁の頂あたりに、申し訳なさそうに十字架が立っているのです。なんとも厳めしい教会堂なのです。

それもそのはず、ここは十字軍時代（12世紀）には要塞として使われていたという事で、頑丈な外壁には、矢や投槍用とも思われる小さな窓があり、入口は背を屈めなければ入れない程に低くなつていのです。

この教会はコンスタンティヌス大帝（三二五）とその母ヘレナが、主イエス降誕の場所

として早くから神聖視していたところに教会を建てたのです。二〇〇年後にサマリヤ人よって破壊されてしまいましたが、まもなくユステイニアス帝（五二七―五六五在位）が修復、増築して現在に至っているのです。

この教会の見どころといえば、地下にある「降誕のかいばおけ」でしょう。その地下の小部屋には、白色大理石の「かいばおけ」が置かれて、暖簾の感じの緋色のカーテンを垂らした中に、大理石の床に白銀の星がはめられ、「ここにてイエス・キリストは処女マリヤより生まれ給えり」と、ラテン語で記されています。



聖誕教会

あたりはうす暗く、キンキラの祭壇にロー

ソクや燭台、色とりどりのカーテン、このゴ
タゴタした有様は、どうしても、つくられた
聖跡」といった感じが強すぎて、なんともシ
ラケてしまい、興ざめの感さえしてしまうの
です。本当にここがそうではないとはいいま
せんが、とにかくここはベツレヘム。そのど
こか主がお生まれになったに違いない。こ
こがそこであるといわれた為、誤差は何十メ
ートルかなどと神経を使つてはいられません。
降誕の場所も「確かにここで」ということで
十分なのでしょう。これ以上細かい位置の正
確さを求めることは、必ずしも信仰とは関係
のないことです。と同時に、教会内部の装飾
は不要な物に思え、もつと素朴なものの方が
最もふさわしいと思えるのです。

現地を見ないで勝手なイメージをふくらま
せることは、場合によってはとんだ誤解を招
くことを、初めて目にして痛感させられる場
面が随所にありました。現実の聖跡も、少な
からず詩情をそこなう存在ですが、現実は今
実として受け入れることが大切なのだとい
うことを教えられました。

合同同窓会報告

合同同窓会は、燦葉、橄欖、六葉、香葉の
各部会から成る幹事会が、月一回の会合を持
ち、会館購入の為に努力しております。諸条
件が中々整わず、入手までに未だ、しばらく
の時間がかかりそうですが、一日も早い実現
を目指してがんばっております。今年の総会
は六月二十七日、各部会代表の評議員が集ま
り開かれました。当日、永年同窓会の為にお
働き下さった、橄欖会の町田氏、燦葉会の加
藤氏、常盤氏のお三方を顧問に推選し、御承
諾頂きました。お三方共、学校法人の理事と
しても活躍して下さいました。特に加藤氏は
前理事長として学院の現在の発展に大きな貢
献のあった方ですが、この総会のわずか数日
後、天に召され、この日が最後のお別れの日
となつてしまつたことは誠に残念なことでし
た。香葉会が発足した時の燦葉会長でもあり
大変お世話になつた方です。主の御許で安ら
かに……とお祈りいたします。

今年の「県央の集い」は十一月二十一日(土)
午後六時より、厚木市小杉会館で開かれます。
県央に在住の方々の多数のご出席をお待ちし
ております。役員が出席し、香葉会の会員の
皆様と歓談したいと思つております。

5 ページよりのつづき

歌子さん安らかに

昭和六十一年七月二十七日、村松(森)歌
子さん(家一)が亡くなられました。光聲院
妙道日歌大姉と名を代えられ、西中山常照寺
(南太田駅に近い鬼子母神の寺)で永遠の眠
りにつかれました。急性の癌だったそうです。
学生時代クラスの世話役やクラブ活動等で、
華やかに過した彼女の姿を、思い出される方
も多いと思います。関東学院御出身のやさし
い御主人と、幸せな御家庭を築いて三十余年、
御両親はじめ、御主人の会社の方々、近所の
お年寄等、実によくお盡しになり、又大変信
仰の心の厚い方でした。

私は昭和十九年、岐阜市の女学校で知り合
い、こよなき友として、同じ女専で机を並べ
親しんだ仲でしたが、昨年暮、安藤先生の会
にと電話した時はお元気で、お母様の看病で
行かれないと話していられたのに、信じられ
ない早い別れが訪れるとは、只諸行無常を思
うのみで言葉もありません。今はもう思い出
の中でしか逢えなくなった歌子さん、安らか
に、心より御冥福をお祈り申し上げます。

人生のみのり見ずして逝きし友
四十余年の思い出残して 久子

第一回 夏期カナダ研修への参加

幼児教育科 一年B組 高尾尚江

私は幸運な事に、第一回目のカナダ研修へ参加する事が出来ました。学長他、諸先生方、父兄や友達に見送られ、不安と期待を胸に七月二十六日、カナダへ出発しました。私は小さな頃から、自然の景色がすばらしい、カナダへ行く事が夢でした。

バンクーバーへ到着すると、まず最初に私達は、空気の匂い全般違うと感じました。空気が澄んでいるせいも、花や芝生なども、本当にきれいで、色が鮮やかなのです。町並は、道が広々としていて、一つ一つ、とてもカラフルで可愛いらしい家が建並び、私達は見る物、見る物に歓声をあげる毎日でした。最初の二週間は毎日、午前中、プリティッシュ・コロンビア大学へ通い、日本とカナダとの、日常生活、文化などの違いや会話の勉強をしました。勉強は思



っていたよりもとても楽しく、先生方は自由に積極的に、英語を話せる場を私達に与えてくれました。そして午後は、自分達で計画をし、辞書と地図を持って色々な所へ出かけました。タウンタウンは高いビルが建並び、東京の様でしたが、ビルとビルの間からは大きな山と海が見えるのです。本当に信じられない光景でした。耳に入ってくる声は何もかも英語。初めの二、三日は、どうしてもラジオなどを

聞いている様で、奇妙な感じでしたので、朝、ホストファミリーのお母さんに起こされても、錯覚してしまい、なかなか起きなかつた日もありました。お世話になったホストファミリーを始め、近所の人達、バスの運転手さんやお店、学校の人達、すべてカナダで出会った人達は、私達にとっても親切にしてくれました。とても良い環境の中で、私は日に日に英語が自然に聞こえて来る様になり、自分から「——」と積極的に手を挙げ、挨拶を交したりできる様になっていったのです。前は照れてしまい、外人の目もろくに見る事が出来なかつた私が、目をじっと見て話を聞いたりする事が、まっく、自然に出来る様になったのです。とても嬉しかったです。一週間目の土、日を使って私達は、バンフへ向かいました。少し疲れを感じていたのですが、広大なカナディアンロッキーズの自然を見たとなん、疲れなどどこかへ飛んで行ってしまい、とにかく瞳が緑に染まる程目に焼き付けてきました。ただただ声をあげ、こんなにすばらしい自然、写真や絵ハガキで見っていた景色が、本当に自分の周りに有る、その中にいる自分が、信じられませんでした。そして最後の一週間は、ピクトリア、シアトル、サンフランシスコを観光しました。カナディアンロッキーズは、たくましい印象を感じさせたのに対し、ピクトリアは、町全体が花に包まれ、本当に可愛いらしい印象でした。長い様で短かつた三週間でしたが、とても充実した毎日を送りました。行く先、行く先で出会った人達、私は今も、この先も、決して忘れる事はないでしょう。

そして、三週間本当に私達のお母さん、お父さんでいてくださった宮川先生、立花先生には、心から感謝しています。

本当にすばらしく、もったいない位の良い経験が出来た自分を、辛せに思っています。この経験が、生かせる様これからもがんばっていきます。

クラス会報告

〈女専一回卒同期会〉

女専創立四十年になる今年の一回生の集りは、六月二十八日、横浜そごうのダリア・ルームで行われました。

二年振りのなつかしい顔が二十四名。下鴨茶寮の京料理を頂きながら、この日はかりは花の乙女の頃にかえって、盛会でした。

幹事は、中野ノブ子さん、湿美裕子さん（英）、横山涼子さん（家）から、次回の高橋久美子さん（英）、原淑子さん（家）へ引継がれ、また逢う日を約して散会しました。



〈英文科二回五月会〉

大学を巣立って早や三十三年、私たちの同期会は、五月会の名称で毎年五月の第三日曜日に開かれています。今年は横須賀の観音崎で開かれ、出席者は七名と云う少人数のパーティでしたが、晴天に恵まれ、ポリウムたつぷりのカニ料理と新鮮な磯料理に舌つづみ

を打ちながら近況を語り合いました。

話題の中には、わが子のお嫁さん、お婿さん探しや、孫の話等々……。なごやかな一時を過ごすことが出来ました。

今回は特に院長夫人の座にある柳生さん、ご主人の療養中にも拘らず、出席下さったり北九州の元広さんが遠路はるばる飛行機でかけつけ、持ち前のパーソナリティで会を盛り上げて下さり、みなさん、手を取りあつて、感謝し合いました。久し振りの顔合わせで、すっかり学生気分にもどおり、時の経つのを忘れるほどに話がはずみました。いつか閉じねばならぬ会を互に口にするのをためらうような思いのうち、来年の再会を約して別れました。

小林 寿恵子記

小林さんのお宅で二次会を致しましょう。と云うことで、今年の級会は早くからとても楽しみにしていました。「よう吉」から程良い散歩をしながら閑静な住宅地、五月の風が、さわやかな。見晴らしの良い部屋に私達はくつろぎました。囲んだテーブルの上には、もちろんお茶やら、ケーキやらがいっぱい。たちまちみんな学生の頃にもどつてガヤガヤ始めました。様々な永い人生を歩いて来たの

にほんとにみんな持味の変っていないこと。

でも零開気はさすがに、「花の熟年」といったところでしょうか。昔のこと、現在、将来の生き方など話に花が咲きました。こんな涙まで浮べて笑いころげたのは何年ぶりでしょうか。今後のさつき会の方針など話し合い、まだまだ別れ難かったのに、あつという間に夕方、五時を過ぎてしまいました。今日一日、

いつもより以上に友達の一人一人に気持のつながりをもてた事に感謝しながら、来年の再会を約し帰途につきました。佐野 妙子記

〈英文科Bクラス四十二年卒クラス会〉

去る5月18日(日)午後二時より横浜中華街に於いてクラス会をもちました。卒業してから18年。卒業年後のクラス会以来、実に15年ぶりの再会に担任の宮川先生にも御出席いただき華やかにして、楽しいひとときをすごしました。半数くらいの方から近況などのお返事をいただいたものの、やはり家庭の事情などで出席できない方が多く、出席者は先



生を含めて12名。残念ながら予想より少なかったものの、円卓を囲んでなごやかな雰囲気の中に様々な話題がとぎれることなく、3時間があっという間でした。このクラス会の終わりに当たっては、次回幹事も決められました。次回はより多くの方々への参加を願いつつ2年後の再会を約束して閉会となりました。

報告者：香葉会年度委員 三木 和



宮川先生を囲んで 後列向って右筆者

賛助金をご寄付

くださった方へのお礼とお願ひ

今年も後記の方々から総額「三十五万七千円」をお送り頂き、厚く御礼申し上げます。諸物価の値上げにより、年々「香葉」の発行がむずかしくなっておりましたが、卒業生唯一の雑誌をなくしたくないと、編集員一同がんばっておりますので、今後共賛助金の御協力をよろしくお願い致します。

六十年度賛助金寄付者(敬称略)

越智協子 齊藤由起子 於木久恵 中川あや
 布施里佳 吉田理恵子 徐多恵子 長部富子
 飯田三都子 川上妙子 松田良子 柳生二三
 五十嵐榮江 田辺洋子 雨平洋子 高山政子
 山崎由紀子 中西文子 葉袋桂子 松上尊代
 霜鳥三枝子 秋山啓子 有田玲子 山平洋子
 長嶋久美子 鶴見智子 田牧洋子 中根悦子
 池沢なおみ 土山忠 中田美恵子 高橋静子
 吉田さみ子 漆畑晴枝 加藤美保子 鈴木章
 横山はる代 押野澄子 角津尤子 菊地和子
 齊藤恵美子 山本長生 林星子 我妻千恵子
 竹内由紀子 渡辺光代 増本順子 木村燁子
 錦織マサ子 安藤憲子 細野清美 馬場直子
 松本智恵子 佐々木晶美 栗原康子 溝口泉

芦部九女夫 石崎キク 杉浦睦子 西山節子
 大石豊代子 松本律子 土屋幸枝 長崎洋子
 永井八千代 金子貞子 足立求子 加沼茂子
 長谷川有紀 関根幸子 岡崎幸恵 須田和子
 上川奈緒子 菅野弘恵 久保弘子 高橋秀子
 小林千鶴子 池田英代 高木幸子 平間敦子
 鈴木依代子 伊藤精彦 浅葉勝美 稲垣愛子
 八木智恵子 氷坂禮子 石田禎子 矢田宏子
 岡部かきわ 鈴木千春 岩堀迪子 平井初枝
 馬屋原絹子 渡辺恒子 玉木宮子 小野和子
 山口佐智子 和田澄恵 篠原淳子 井田玲子
 中嶋貴美子 齋藤一正 千田節男 中谷純子
 関口眞喜子 大坂恵子 大井法子 河井悦子
 後藤美和子 若松直子 秋山悦子 河村順子
 田丸瑠実子 福岡世紀子 鈴木葉子 浜本茜
 関谷由利子 横山涼子 長原照美 佐藤美代
 高齋香代子 寺内雅子 伊藤陽子 峯尾愛子
 岡部安耶子 鈴木恵美子 田中晴子 佐藤幸
 塚田由美子 岸本有加 鈴木一代 古城房子
 井上多恵子 水木宜子 安彦潤子 相吉典子
 金子美佐江 中村はるみ 長谷川不二恵
 洲上龍美 中村智子 平森美樹 吉田年江
 志賀ミチ 小島純子 (以上一四五名)

昭和 60 年 度 決 算				昭和 61 年 度 予 算	
収 入 の 部	予 算	決 算	増 減	収 入 の 部	予 算
会 費@8,000×795	6,360,000	6,360,000	0	会費@8,000×786+1	6,296,000
賛 助 金	500,000	331,500	168,500	賛 助 金	400,000
委 託 販 売 手 数 料	700,000	791,870	△ 91,870	委 託 販 売 手 数 料	700,000
預 金 利 息	10,000	70,779	△ 60,779	預 金 利 息	10,000
途 中 退 学 者 累 積 予 納 金	0	11,255,700	△11,255,700	雑 収 入	5,000
雑 収 入	5,000	50,960	△ 45,960	前 年 度 繰 越 金	1,291,020
前 年 度 繰 越 金	306,832	306,832	0		
合 計	7,881,832	19,167,641	△11,285,809	合 計	8,702,020
支 出 の 部	予 算	決 算	増 減	支 出 の 部	予 算
通 信 費	2,200,000	1,413,285	781,715	通 信 費	2,200,000
印 刷 ・ 製 本 費	700,000	666,194	33,806	印 刷 ・ 製 本 費	800,000
総 会 ・ 会 合 費	1,100,000	709,763	390,237	総 会 ・ 会 合 費	1,100,000
交 通 費	150,000	141,070	8,930	交 通 費	150,000
用 品 費	500,000	400,400	39,600	用 品 費	500,000
備 品 費	40,000	63,530	△ 23,530	備 品 費	40,000
委 託 費	100,000	73,125	26,875	委 託 費	100,000
謝 礼 費	150,000	59,500	30,500	謝 礼 費	100,000
消 耗 品 費	50,000	33,334	16,666	消 耗 品 費	50,000
人 件 費	1,200,000	1,200,000	0	人 件 費	1,200,000
合同同窓会分担金@300×795	238,500	238,500	0	合同同窓会分担金	236,100
新 入 会 員 歓 迎 費	1,000,000	704,100	295,900	新 入 会 員 歓 迎 費	1,000,000
名 簿 発 行 準 備 金	200,000	753,680	△ 553,680	名 簿 発 行 準 備 金	200,000
特 別 会 計	0	11,255,700	△11,255,700	特 別 会 計	500,000
雑 費	13,332	5,840	7,492	雑 費	25,920
予 備 費	240,000	153,600	86,400	予 備 費	500,000
次 年 度 繰 越 金	0	1,291,020	△ 1,291,020		
合 計	7,881,832	19,167,641	△11,285,309	合 計	8,702,020

就職体制一段と充実

—就職課新設—

学生生活部長 山下輝彦

昨年までは就職の仕事は学生課の一つの業務とされていたが、八〇〇名にも及ぶ学生のほとんどが就職を希望している現状や、従来社会のニーズに適應しているとの理由で、かなり優位に立っていた短大女子の就職状況が、社会変化にともないここ数年著しく厳しくなってきたなどの現状にともない、就職業務の整備・拡充が必要となってきた。

このような状況を踏まえ、かねてから就職業務を重視されてきた林学長の強力な指導のもとに、就職課新設案が作成され、本年四月から就職課長を含め四名の就職課が新設されるに至った。

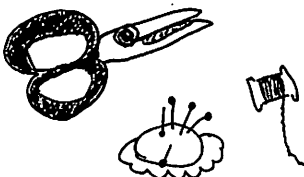
就職課の主な業務は、学生の進路確認、就職意識の高揚などを目的として実施する個人面接、各種ガイダンス（諸注意・講演会・卒業生との懇談会・模擬面接・ビデオ上映）の実施、求人開拓、個別指導、就職講座の開催、就職希望調査の実施、求人依頼、求人票受付・処理、各企業との連絡・調整、学生への求人情報の提供、各種統計資料の作成などである。現在、この就職課が新設されたおかげで、順

調に業務が進められている。特に求人開拓の面では、林学長の方針により、企業情報に精通している前都銀調査役がスタッフの一員に加えられ、いままで求人が頂けなかった一部上場の一流企業からも求人が頂けるような道も開け、着実に成果があげられている。

本年度の就職状況であるが、「男女雇用機会均等法」が施行され、また「就職協定」の一部変更がおこなわれた結果、その取り扱いについて企業側も大学側も苦慮しており、かなりの混乱があるものと予想される。さらに円高不況による業績不振の結果、採用を削減または中止する企業も出始め、特に海運業、製造業でこの傾向が強い。

このような厳しい社会情勢の中で、就職を希望している本学学生が一人でも多く良い企業に就職できるよう、就職課としては就職資料室の整備・充実に力を入れている。たとえば就職資料室は夏期休業期間中も、土・日・祝日を除いて午前九時から午後六時まで開室されており、学生は各種就職関係資料・会社案内および先輩の結果報告書などを随時閲覧することができる。また企業との接触の仕方や業種選択・企業選択についての個別指導および各企業の具体的な求人情報の提供など、かなりきめ細かいサービスが受けられるようになっている。

本年度の就職活動はまだ始まったばかりであり、短大生の求人票の掲示は九月一日、会社訪問解禁は一〇月一日であるが、もうすでに八月一日から四年制大学生の求人票が掲示され、八月二〇日から会社訪問が解禁されており、大分慌ただしくなってきた。企業としても協定を守るべきかどうかでかなり迷いもあり、企業からの非公式の接触も増えてきつつある。例年なら、まだのんびりしている本学学生も今年は夏休み中にもかかわらず、連日多数就職資料室を利用しており、真剣なまなざしで資料を見たり、メモをとったり、職員の見聞を聞いたりしている。これら熱心な学生達に対して、少しでも有効な就職斡旋・指導ができるよう、近藤学生主事（就職担当）および四名の就職課職員は連日汗を流しているが、各企業が活躍しながら、多忙な業務の合い間を縫って、後輩の面倒を見て下さっている卒業生各位のご尽力も見逃す訳にはゆかない。感謝すると共に今後ともよろしくお願ひしたい。



母校ニュース

〈新任教職員紹介〉

程野 眞先生——一般教養科



専任助教として、情報処理論および演習を担当されています。ご専門は数学とのことです。

新一 信一先生——家政科



家政科の研究助手として情報処理演習の授業をうけています。関東学院大学を卒業後、筑波大、大学院を出ら

れています。

新海 浜子さん——英文科



躍されています。

三九年に本学を卒業後、英文科の特約教務職員として勤務され、本年四月より専任教務職員技師補としてご活

石綿 克典さん——教務課



関東学院大学経済学部を卒業。現在教務課に配属され、毎日学生の対応に一生懸命頑張っています。

金丸美由紀さん——幼児教育科



六〇年に幼児教育科を卒業後、一年間アルバイトで教務職員として奉職。本年四月より専任として勤務しています。

〈新校地の整備が完了〉

前号にてお知らせした、短大に隣接した六浦校地の整備工事は、昨年一〇月一六日に始められ、本年四月二三日に完了しました。

緑色のコルク舗装をした全天候型テニスコート四面と、二人立の弓道場、そして二五台収容の駐車場

を設け、残りの空地には芝を貼りつめています。テニスコートには

照明設備もなされ、体育実

技の授業や課外活動にと利

用させていま

す。また空地は将来弓道場

を備えた新体育館建築の構

想がある為、今回の弓道場

は仮設となっ



〈チャペル建築の工事始まる〉

創立一〇〇周年記念事業として短大はチャペル建築を計画し、卒業生の皆様と後援会、在校生、教職員に建築資金の協力をお願いしているわけですが、その工事が四月二三日に起工式を執り行い、着工されています。建築場所は体育館の東隣、テニスコートと弓道場の跡地です。建物は三階建中心で祈禱室を最上階に持つ塔は六階建相当の高さとなります。一、二階は講義室、三階がチャペルで、中二階を持ち、残りは吹抜けとなります。チャペルの収容人員は約六〇〇名です。完成は来春三月を予定しています。



〈岡松教授、新田次郎賞を受賞〉

国文科長の岡松和夫先生は、六月二六日、第五回新田次郎賞を受賞されました。受賞作は『異郷の歌』で、この本は文芸春秋から出版されています。この『異郷の歌』はブラジル移民たちの残した短歌を手掛りに「移民における日本の感情の歴史」に目を注いだ作品ということです。又、この本は毎日新聞社および全国学校図書館協会主催の第三二回青少年読書感想文全国コンクール（高校の部）の課題図書にも選定されています。



年読書感想文全国コンクール（高校の部）の課題図書にも選定されています。

位を授与されました。

学位論文は「キノコ類の炭水化物および有機酸の動態に関する研究」によってです。お二人の授与により本学の博士号所

持者は、林学長、太田先生、真坂先生、山下（多）先生、笠原先生、斎藤先生、倉沢先生、と合わせて九名となりました。



〈秘書士課程を全学科に開設〉

本年より短大に秘書士課程が開設されました。この課程を終了すると、全国短期大学秘書教育協会によって「秘書士認定証」が交付されるということです。本年度の履修者は全科合わせて二五五名とのこと。学生の反応はなかなか良好で、高級な女性の職業。就職に有利。資格そのものより、この課程で履修する科目から得る知識や技能に魅力を感じる。またこの勉強を通して女性としての教養を深めたい。等々皆意欲的に勉強しています。

〈岡田先生、吉田先生博士号を授与〉

家政科の岡田宣子助教授は六月一〇日付で大妻女子大学より学術博士の学位を授与されました。学位論文は「日本人の身体形質の近代化と衣生活意識との関連性」について。

また、同じく家政科の吉田博助教授は、八月二〇日付で東京農業大学より農学博士の学

＜安藤先生、井口先生、瑞宝章を叙勲＞

六〇年秋の叙勲で、安藤寿々代名誉教授は勲四等瑞宝章を、また井口安喜子名誉教授は勲五等瑞宝章をそれぞれ叙勲されました。この叙勲お祝いの会が短大主催で本年一月二十九日（水）、横浜国際ホテルで開かれ、安藤先生は昭和二十一年以来、井口先生は昭和二十九年以来と共に長い教歴を物語るように新旧多数の卒業生や教職員が集まり、両先生の数々の功績や、知られざる楽しいエピソードなどが披露されました。香葉会からは会長、副会長がスピーチし、役員も数名参加いたしました。また、心ばかりではありますがお祝いの金一封と花束を贈呈いたしました。



＜学生相談室新設＞

短大では従来より、クラス担任制、アドバイザー制があり、学生の相談に先生方が当たっていますが、本年四月より学生生活部の一機関として、学生相談室が新設されました。この相談室には専門のカウンセラーをはじめ、特別相談員の先生方が常時、相談に応じています。

＜海外研修、カナダへも＞

短大では国際交流委員会の企画・実行による海外研修を実施していますが、本年度は五年以来行っているハワイ大学での研修に加え、カナダのプリティッシュ・コロンビア大学の協力を得て、カナダ研修も実施されました。ハワイ研修は二週間、アパートメントホテルに宿泊し、自炊生活を行いながらハワイ大学に通学し、語学研修を行いました。カナダ研修は三週間で、ホームステイ生活をしながらの語学研修でした。両研修とも無事終了し、皆元気で帰国いたしました。大きな成果を胸に。

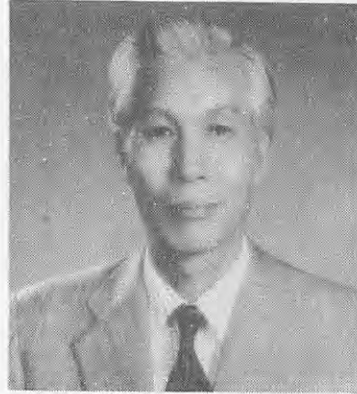
＜加藤亮三先生、召天＞



関東学院顧問で前理事長の加藤亮三先生は七月一日心筋こうそくの為召天されました。学院葬は七月十三日（日）午後二時から三春台中高大講堂で、先生を偲ぶ多数の会葬者のもと、しめやかに執り行われました。

先生は昭和二十六年より二十九年まで法人評議員、昭和四三年より四六年まで監事、四六年より五三年まで理事長を務められ、五三年からは顧問として活躍中でした。香葉会にとっても会発足時の燦葉会長でいらっしやり、大変お世話になった先生でした。ほんとうに残念でなりません。安らかに、とお祈りいたします。

柳生直行院長、召される



柳生先生は昨年十二月、手術を受けられました。その後週一度は、学院にも出勤される程に回復され、四月の短大の入学式にも出て下さいましたのに、五月再入院、奥様の献身的看護と、皆の祈り空しく遂に、九月三日天に召されました。優れた指導者を失い学院にとって大きな損失です。四日前夜式五日出棺式が行われ多数の回葬者がありました。九月二十一日、学院葬で最後

のお別れを致しました。昭和二十七年、短大教授として赴任されて以来、教育、C・S・ルイスの研究、執筆の傍ら五十三年からは院長としての激務を果されました。学院名物のシェークスピア劇は、女専時代、故光畑教授の指導により始まったものですが、それを本格的に育てたのは先生でした。型破りの異色の先生として学生達に人気がある一方、湧泉教会の牧師として厳しい信仰に生きた方でした。聖書の翻訳が最後のお仕事となりましたが、昨年五月、盛大に開かれた出版記念会が先生と、先生を支え助けてこられた奥様への最後の饞けとなりました。昨年の学院クリスマスと立派に整備された釜利谷キャンパスを先生に見て戴けなかったのが、心残りです。今、すべての苦しみと責任から解放されて、安らかに主の御許に慰われましますことを、又残されたご遺族の悲しみが一日も早く癒されますように、お祈り申し上げます。

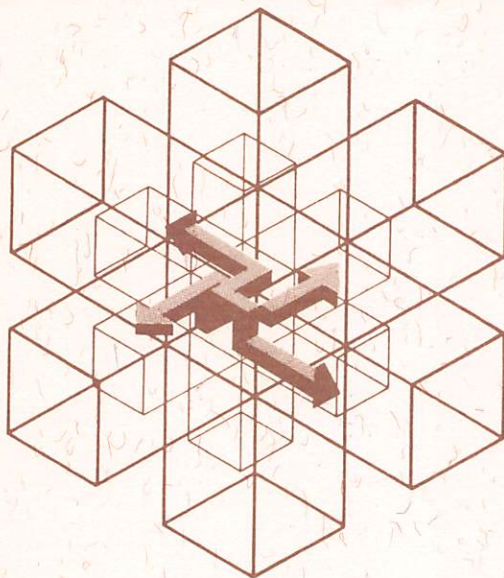
編集後記

今年の夏は過し易く、短かったように思います。もう今では鈴虫が一番大きな声で鳴いています。

「香葉」十五号、いかがでしたでしょうか。今年から編集委員会を事務局に置いて活動いたしました。十五号の特徴は、女専のページを設けたことです。今年は短大にとって女子教育四〇周年という年であり、女専の諸先輩方のお話しをこれからも永く、そしてより多くの皆様からいただければ、と思っております。また、今年から始めた講演会。この要約も載せ、今年もステキな方に講演を依頼できました。

何かとご多忙の中、皆様に心よく原稿を書いていただき、感謝に耐えませんが、本当に、ありがとうございます。

卒業生の方々から「香葉、楽しみにしています」というお言葉が何よりもうれしい編集部です。そしてまた、この香葉を支えているのも、卒業生の皆様お一人お一人なのです。どうかこれからも応援して下さい。投稿をお待ちしています。



後輩へ就職求人を!

本学卒業生の就職については、卒業生の実績が実を結び、毎年卒業予定者の2～3倍に達する求人があり、各科共百パーセントに近い成績をあげています。しかし、地方出身者に関しては、短大卒業生を受け入れる職場が少ないのです。そこで、高校卒業生に比較し、対人応待等に優れ、即、戦力化し易い短大卒業生、皆様の後輩採用を、皆様及び皆様のご主人に是非、ご検討いただきたいのです。

短大生ご採用のお話しがございましたら、下記就職課迄、ご連絡いただきますように、お願い申し上げます。

〒236 横浜市金沢区六浦町4834 Tel (045) 784-1491 内258・281

関東学院女子短期大学就職課

香葉 第 15 号

昭和61年10月25日 印刷・発行
関東学院同窓会・香葉会
代表者 古城 房子

横浜市金沢区六浦町4834 郵便番号236
関東学院女子短期大学内
電話<045>784-1491 (内線 216)

關東学院同窓会・香葉会誌